

ウエルハーネスだより



192号

理事長からの言葉

九州地方は梅雨入りしたようですが、この辺の雨の降り方も梅雨のような感じがします。晴れの日との温度差も激しいので、体調管理に皆さんお気を付けください。

今後、コロナに対する規制が一気に緩められそうです。ただ、感染後に求められる対応は以前と変わっていません。皆さんから面会再開に関するお問い合わせをいただくのですが、規制緩和後の感染の状況を見極めてから判断したいと思います。もうしばらくお待ちいただければと思います。LINEによる動画配信をご利用いただければと思います。

さて、今月ですが知り合いの元特養の施設長から聞いた「肝は試すな」というお話です。

その方が勤めていた社会福祉法人の母体は精神科医療機関を運営する社会医療法人で、元施設長は社会医療法人の理事と医療相談室のスーパーアドバイザーもしていたそうです。そのため精神科病棟にどのような方が入院しているか熟知していました。

入院患者さんの中に「心靈に祟られた」ことが原因で「自分がおかしくなった」と訴える方が少なからずいたそうです。それは心靈現象が本当にあるとか、幽靈が実際に存在するという意味ではなく、病気の原因が何らかの心靈現象に起因していると信じている人がいるんだそうです。

例えばG君という患者さんは友だちと3人で「肝試し」のため心靈スポットとして名高い「廃ホテル」を夜中に訪問したことが原因で、恐怖性障害からうつ病になり、もう20年以上入退院を繰り返す生活を送っているそうです。

彼らが真夜中に訪れたホテルは気味悪かったが、中を散策しても何も起こりそうもなかったので、G君は友だち2人に「何もいないな」と話しかけたそうです。しかしその瞬間「そうかしら」という女性の声が聞こえて、3人とも悲鳴を上げて逃げ出したとのことです。ホテルから猛スピードの車で無事に家まで帰ったそうです。しかし、G君以外の2人に悲劇が起こります。A君は1か月後に胃がんを患っていることがわかり、その半年後に死去してしまった。B君は3か月後に

勤めていた会社が倒産し、再就職も失敗して有り余る時間をギャンブルに費やしついに高利貸しに手を出してしまった。それによって借金取りに追われる身となり、行方不明になってしまったらしいのです。これらを靈の祟りだと信じたG君は、きっと自分も祟られていると思いこんで恐怖性障害に陥ったのだそうです。

恐怖性障害とは、ある特定の状況や対象に過度の恐怖を感じ、その恐怖によって生活や精神状態に支障が生じてしまう病気の総称であり、うつ病や自律神経失調症の原因となるものです。G君の友だち2人を襲った悲劇は本当に靈障と言えるかはわかりません。若い方が進行性の胃がんを患って短期間で亡くなることは決して少ないことではないですし、会社の倒産や再就職が困難な方もいることでしょう。もしかしたらB君は借金取りから逃げただけで、他の土地で普通に暮らしているかもしれません。しかし、G君はすべての悪い事象を、肝試しと結びつけてしか考えられなくなっています。その思い込みこそが怖いのだそうです。そこに考えが落ち込むと精神疾患を発症させ、悪化させる原因となるのだそうです。

これから、肝試しや心靈現象が話題となる季節になります。今まで、コロナ禍でそういった体験も控えていたかもしれません、安易に肝試しなんてしない方がいいよ、ということです。

4～5月の行事

季節の行事食として5/5は、子どもの日に箸を鯉のぼりに見立てたお食事。5/24は、東北メニューとして「ソースかつ丼・枝豆の呉汁・汁なし芋煮・ワカメサラダ・キャラメル林檎プリン」を召し上がって頂きました。ボリュームあって美味しいと好評をいただきましたので、次回も計画させて頂きます。

特養では、ユニット毎に母の日にカーネーションをお渡ししたり、お茶会などをおこないました。また、花を箱に配置して脳の活性化と手指の機能向上に、ボックスフラワー作りを行うユニットもありました。

デイでは、筈取りゲームをおこなったり、色紙を使って傘の吊るし飾りを作りました。また、チーム対抗で風船ゲームや5/18・19は、春の向山運動会を開催しました。

5～6月の予定



特養では、ユニット毎にお茶会をしたり、父の日レクや創作レクを考えています。

デイでは、天候を見ながら平成の森公園や花の丘公園へバラや菖蒲を見にドライブする予定です。また、洗濯早干しゲームや魚釣りなども計画しています。



